

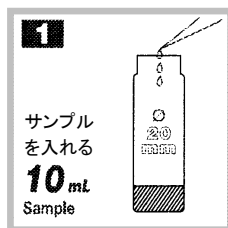
金属前処理試薬セット

方法 TNTplus™ 890

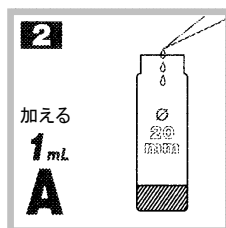


測定の準備

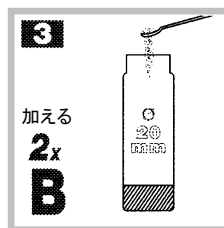
- パッケージに記載の**安全上の注意**および**使用**をご確認ください。
- **用途**: この金属前処理試薬セットは、次の TNTplus™ 試薬にご使用いただけます。
全カドミウム (TNT852)、銅 (TNT860)、鉄 (TNT858)、鉛 (TNT850) またはニッケル (TNT856) 等
また、全アルミニウム (TNT848) または全クロム (TNT854) には、ご使用できません。
- 万一の飛散や漏れに備えて、安全用具を準備してください。
- 反応チューブを加熱する前に、反応チューブの口がしっかりと閉じていることを確認してください。
- **リアクターの設定**: 100℃、1 時間の加熱を設定してください。
- **手順**: この TNT890 垂金属前処理試薬セット分解操作後は、対象とする金属についての TNTplus™ 試薬操作手順書に従ってください。



1. ピペットを使って、サンプル 10mL を 20mm 反応チューブに入れます。



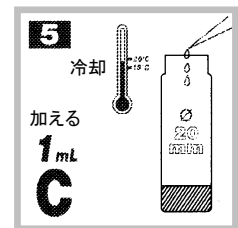
2. ピペットを使って、試薬 A 1mL を 20mm 反応チューブに加えます。



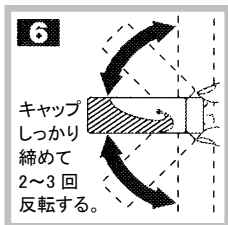
3. 計量スプーンすり切り 2 杯分の試薬 B を 20mm 反応チューブに加えます。



4. 反応チューブをリアクターで、100℃、1 時間加熱をします。



5. 反応チューブが室温まで下がってから、ピペットを使って、試薬 C 1mL を加えます。



6. キャップをして、2～3 回ほど、反応チューブを反転します。

対象金属の TNTplus™ 試薬試験を行うための、前処理分解操作が終了しました。

原理	妨害
HACH 社の TNTplus™ 試薬は、吸光度計により溶存した(非錯)イオンを測定します。 廃水中、重金属はイオン化せず、または結合した状態で含まれます。 この操作は、標準的な試薬では測定できない可能性のある金属錯体を分解してイオン化させるために、酸化剤と熱を用いる方法です。	濁度 : 分解したサンプルが濁っている場合は、ろ過をしてください。シリンジフィルター (Cat. No. 22261-00) および 10mL-シリンジ (Cat. No. 22024-00) をご使用ください。 シアン化物 : この金属前処理試薬セットは、高濃度のシアン化物を含むサンプルの試験には適しません。この方法で、高濃度のシアン化物を含むサンプルを、分解しようとする、有毒なガスが発生します。 pH : 有機化合物を完全に分解するには、試薬 A を加えた後、pH1 以下でなければなりません。試薬 B を加える前に、サンプルの pH 値を確認してください。必要に応じて、硫酸を加えて pH1 以下に調節してください。試薬 C を加えた後のサンプルの pH は、pH3～5 となります。 必要に応じて、硫酸または水酸化ナトリウムを注意しながら加えて pH を調節し、TNTplus 試薬測定の最適 pH としてください。加えた容量に応じて試験結果を補正してください。

備考: より詳しい情報については、HACH の取扱説明書を参照してください。